

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 34

学校名・団体名	坂井市立加戸小学校
HPアドレス	http://www.kado.ed.jp/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	勤労生産学習50年間の歴史を振り返り 次につなげよう
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>○農業地域である本校が取り組んできた勤労生産学習50年の歴史を振り返ることで、地域や農作業に従事する方々への理解と愛着を深める。</p> <p>○地域の特色である農業を引き継ぐ者としての意識を持ち、今年度、新たに自分たちができる勤労生産学習は何かを考え、広く地域に発信する。</p>	

1 活動内容

加戸地区は昔からスイカの名産地として知られており、ここ数年は毎年100個程度の立派なスイカを育て、一人が2個、家庭に持ち帰っている。また、縦割り班活動として全校児童が協力してサツマイモも育てており、収穫後のやきいも会は児童が楽しみにしている行事として定着している。ただ、ややもすると収穫することだけに主眼が行きがちであったことの反省を生かし、2年前からは、勤労生産学習を教科を越えた横断的な学習教材として位置づけし、学年に応じた活動を展開している。例えば、3年生は図工「スイカをカラスから守る案山子づくり」、

6年生は学活を中心に「私たちの学校園に名前を考えて看板を作ろう」

等である。そこで今年度は特に保護者・地域からの要望もあり、異学年での編成による縦割り班18グループでの活動を活発にすることを目指した。そのために本校の勤労生産学習を知るゲストティーチャーとして70年前、50年前、30年前に小学生であった卒業生に当時の活動の様子・思い出を語っていただくこととした。現在、80歳代、60歳代、40歳代の方々のお話を聞くことで、自分たちの活動は脈々と繋がってきたものであり、自分たちも次に繋げていく存在であることを実感させ、自分たちの地区の良さをPRすることができた。



2 時期, 内容, 方法

【5月】 学校園でのサツマイモの苗植え（全校児童181名、近隣の幼保園児20名）児童会活動

○異学年での編成による縦割り班18グループでの活動。

あらかじめ、6年生が勤労生産協力者から苗の植え方の指導を受けておく。下学年に理解できるよう、6年生は資料や模型等を用いて説明、その後、植え付け。



【苗植えのこつを学ぶ】



【苗植えのこつを伝える】



【保育園児にも伝える】

【7月】 スイカの収穫・3年生児童によるスイカ販売

○例年にないほどの豊作で160個の収穫ができたため、PTAや近隣の協力を得て販売



【案山子づくり】



【収穫】



【販売】



【9月】 ようこそ先輩 リレー講演会「加戸っ子ファームのルーツのを知り次につなげよう」

○加戸小学校の勤労生産学習の歴史を知る（全校児童181名）

ゲストティーチャーによる当時の様子・思い出話（リレー講演形式）

- | | | | |
|-----|----------|-------------|-------------------------|
| 1人目 | 70年前の頃の話 | 現在80歳代の方のお話 | 「かつて盛んだった加戸地区でのお茶栽培のこと」 |
| 2人目 | 50年前の頃の話 | 現在60歳代の方の話 | 「子どもの頃の暮らし・茶玉拾いのこと」 |
| 3人目 | 30年前の頃の話 | 現在40歳代の方の話 | 「小学生のころの『勤労生産の時間』のこと」 |

児童感想

- ・昔は学校から帰ったらお茶の実を拾いに行っていたことがわかりました。それをお金に換えていたことも知りませんでした。昔は加戸地区はお茶畑でいっぱいだったなんて驚きました。
- ・私は自分が住んでいる加戸地区のことがわかりました。今でも受け継がれていることがあると思います。
- ・自分で育てたものを自分で収穫する喜びを教えてくださいました。農業の楽しさを教えてくださいましてありがとうございます。



【講演会風景】



【講演会】 加戸っ子ファーム



【講演会資料】

【10月～11月】 サツマイモの収穫（全校児童）
収穫祭（全校児童，お世話になった方々）
学校園のPR活動・サツマイモの販売（6年生が市民文化祭と公民館まつりで頒布）



【収穫】



【収穫祭で感謝状渡し】



【販売】

【12月】 リーフレット「加戸っ子ファームのルーツのを知り次につなげよう」完成。
家庭・関係各所へのリーフレット配布・意見・感想の集約

保護者感想

- ・加戸っ子ファームのルーツを知ることは興味深く，皆さん懸命に働かされていたのだということ，形を変えながらもつながっていることに感動しました。
- ・机に向かっての学習だけでなく，加戸地区の恵まれた農業地を生かしての勤労生産学習はとても素晴らしいと思います。ありがとうございます。
- ・リーフレットを拝見し子どもたちが地域の方々にたくさんお世話いただいていることを知ることができました。子どもたちの財産になると思います。



【パネル展示】

3 成果と課題

本校の位置する坂井北部丘陵地は県内有数の畑作地帯で，農業を継承すべき伝統文化として捉え，全校児童が勤労生産学習としてサツマイモや米・カボチャ・スイカ等の栽培に取り組んでいる。昔からの農業を中心とした地区に新興住宅地が加わり，約50年の間に地域の姿は大きく変わってきている。

本校では昭和58年に当時の文部省からの指定を受けて勤労生産学習の研究発表会を開催以来30年間，地域の青年部の協力を得て，スイカ・サツマイモを育ててきた。しかし，全校的な取り組みとしてマンネリ化してきていることも事実で，現在求められているカリキュラムマネジメントの視点で見直す必要があると考え，今年度は総合，学活等の時間を中心に，他教科との関連も考えて，これまでの勤労生産学習50年の歴史を振り返ることに取り組むことにした。

今回，講演会を催したことで，地域や農作業に従事する方々への理解と愛着を深めることができたのは児童や保護者の感想から知ることができた。また，「あなたは，あなたの今住んでいる地区が好きですか」では「思う」80%（6月）が84%（12月）「あなたは自分の地区に誇れるものがありますか」のアンケート（5・6年生対象）の結果，「思う」が41%（6月）から56%（12月）にとそれぞれに意識の向上がみられた。リレー講演会内容や貴重な写真等を記録としてリーフレットやパネルに残したことで，今後もふるさと加戸に誇りを持つことを児童・保護者へ呼びかけられたと考える。

こうした地域への愛着が育った中で取り組んだ全校サツマイモ栽培は例年以上に熱心な活動となった。「自分たちの育てたサツマイモを売りたい」との声が6年生からあがり，多くの市民の集う文化祭2カ所で販売することができた。大きな声で「私たちの育てたサツマイモ，日本一おいしいですよ」とPRする姿を見ていた地域の方から，彼らの中から地域発展の一翼を担う人物が現れるに違いないと感じた，との感想をいただいている。

このように児童にも保護者にも地域にも意義のある活動となったことは成果として感じつつも，教育活動全般の中でのバランスも改めて考える必要がある。そのためにも年間を見通した活動計画の確認・見直しを全職員で行う予定である。